

1 殺虫剤散布に関して意見交換と情報提供を行ないましょう

害虫は、種類によって人に危害を加えたり、植物の生育を著しく妨げ、美観を損ねるなど様々な種類の被害を及ぼします。しかし、殺虫剤を散布し害虫を防除することは、少ない労力で効果的に害虫被害を防ぐという利点と、その反面、健康や環境への影響が懸念されるという問題点があります。

どのような場合に害虫を防除する必要があるのか、どのような方法で防除するのかなど、害虫防除に関する基本的な考え方を事前に検討しておきましょう。また実際に殺虫剤を散布する際には、関係者に対して十分な情報提供を行ないましょう。

ア 殺虫剤の使用に関する基本的な方針を作りましょう

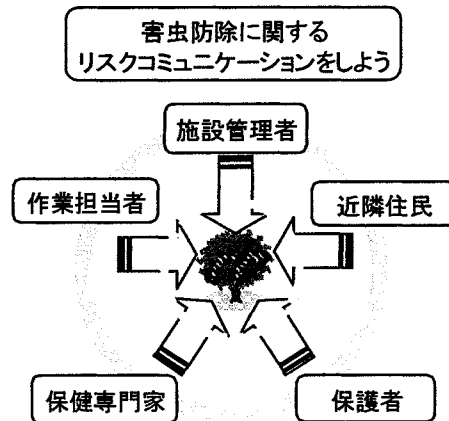
☞解説[1-1] (11 ページ)

- (ア) 子どもたちが多く利用する施設を管理する者（以下「施設管理者」という。）は、害虫防除を実施する時期よりも以前に、以下のような内容を検討し、施設における害虫防除の方法や殺虫剤の使用に関する基本的な方針を策定しておきましょう。
- ・ 施設内に発生する可能性のある害虫の種類と予想される被害
 - ・ 害虫発生状況の確認手順
 - ・ 害虫防除を実施する対象及び防除方法
 - ・ 殺虫剤を散布する可能性がある場合はその実施基準
 - ・ 散布予定殺虫剤の選定方法
- (イ) 施設管理者は、方針を策定する際に、必要に応じて植栽管理の専門家や保健の専門家（あるいは学校保健委員会などの機関）及び作業担当者に意見を求めましょう。

化学物質の子どもガイドライン(殺虫剤樹木散布編)

イ 殺虫剤の使用に関する基本的な方針を広くお知らせしましょう

- (ア) 施設管理者は、方針を策定した後、速やかに配布物や掲示板などで近隣住民や保護者等の関係者にお知らせしましょう。
- (イ) 施設管理者は、方針について関係者から問い合わせがあった場合には、十分な説明を行なうなど、理解を得られるようにしましょう。



ウ 殺虫剤を散布する場合は事前に十分な情報提供をしましょう

- (ア) 施設管理者は、やむをえず殺虫剤を散布する際には、以下の項目について近隣住民や保護者等の関係者に配布物などで事前にお知らせしましょう。
 - ・ 散布予定日時、および中止・延期する場合の条件
 - ・ 防除する害虫の名前と発生状況
 - ・ 対象となる植物の種類と敷地内での位置
 - ・ 散布する殺虫剤の名称と散布予定量
 - ・ 散布する殺虫剤の主な有害性と対処方法
 - ・ 散布前後の具体的な注意事項
 - ・ 安全管理責任者および散布従事者
- (イ) 施設管理者は殺虫剤散布の記録を保管し、要望があれば公開できるようにしましょう。

化学物質の子どもガイドライン(殺虫剤樹木散布編)

2

散布による殺虫剤への子どもの接触を減らしましょう

殺虫剤による影響を防ぐには、殺虫剤への接触を避けることが重要です。

このため、殺虫剤を使用する際には、以下の項目を検討し、施設管理者が責任を持って安全管理を行うようにしましょう。

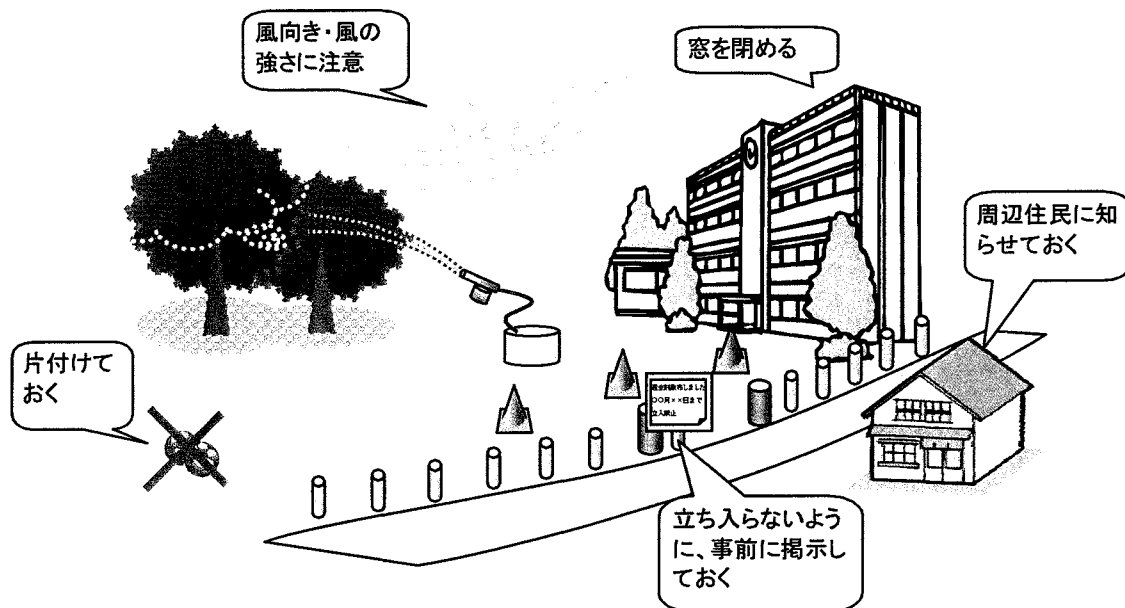
ア 殺虫剤散布を実施する場所に注意事項を掲示しましょう

☞解説[2-1] (12ページ)

施設管理者は、①ウ(ア)に規定する内容について、見やすい場所(出入口や散布作業場所近辺)に事前に掲示しておき、散布作業終了後も、1週間程度引き続き掲示しましょう。

イ 殺虫剤の飛散による子どもへの影響を防ぎましょう

- (ア) 施設管理者および作業担当者は、散布前に、建物内へ殺虫剤が飛散して、子どもの持ち物等へ付着することを避けるため、窓を閉める等の対策を行いましょ。また、ボールなどの屋外で遊ぶ遊具は片付けておきましょう。
- (イ) 作業担当者は、散布作業範囲内に子どもが入らないように対策を取り、常に周囲を監視しましょう。
- (ウ) 作業担当者は、風向を確認し、周辺の住宅、交通等の状況を考慮して、近隣の住民や歩行者への影響をできるだけ防ぎましょう。

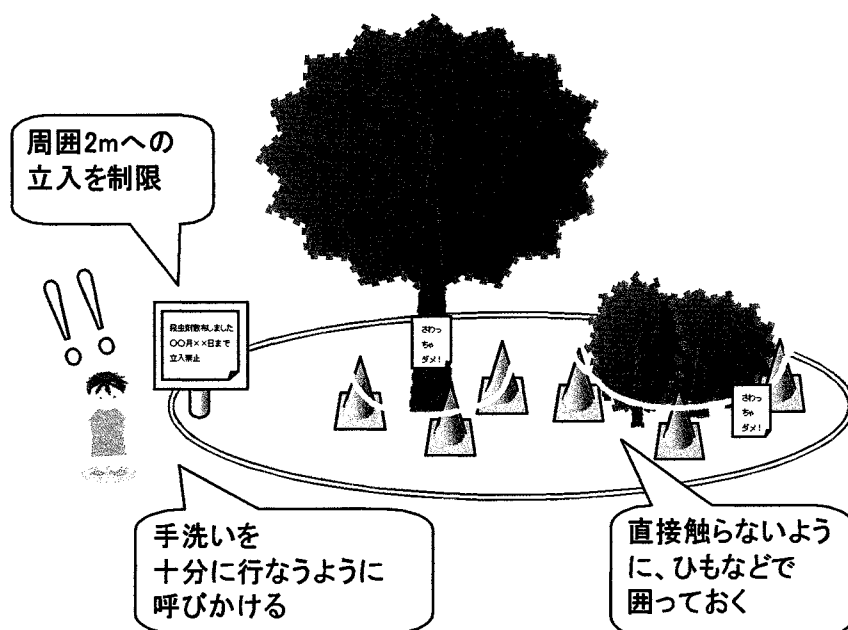


化学物質の子どもガイドライン(殺虫剤樹木散布編)

ウ 殺虫剤を散布した後は立入制限などで子どもの接触を防ぎましょう

☞解説[2-2] (13~15 ページ)

- (ア) 施設管理者は、殺虫剤を散布した当日とその翌日は、子どもが散布した植物に近づかないように、周囲（およそ2m）への子どもの立ち入りを制限しましょう。
- (イ) 施設管理者は、散布後しばらくの期間、子どもが散布した植物に触れないように、周囲にロープを張るなどの対策を行いましょう。
- (ウ) 施設管理者は、子どもに対し、期間内に散布した植物の葉、幹などに触った場合には、石けんで十分に手を洗うよう呼びかけましょう。



この節の基本的な考え方は「住宅地等における農薬使用について（平成15年9月16日付15農安第1714号農林水産省消費・安全局長通知）」に基づいています。

☞解説[2-3] (16 ページ)

化学物質の子どもガイドライン(殺虫剤樹木散布編)

3

殺虫剤を使わない害虫防除法も取り入れましょう。

日ごろから、樹木が健康に育つように管理し、以下の項目を実施しましょう。

被害予測 ⇒ 早期発見 ⇒ 早期判断 ⇒ 早期防除

労力も手間暇もかかる作業ですが、学校などでは子どもと一緒に取り組むことで環境学習の効果も期待できます。

- ア 被害予測：施設内の樹木の種類を確認し、発生しやすい害虫と被害の内容および発生時期を資料などで調べておきましょう。☞解説[3-1](17ページ)
- イ 早期発見：発生する時期に樹木をよく観察し、幼虫の発生の有無を確認しましょう。害虫の種類によって食害や生態が異なるので、特徴を踏まえた上で、観察を行いましょう。



チャドクガ



アメリカシロヒトリ



イラガ



モンクロシャチホコ

写真提供：東京都病虫害防疫所